

大好きをありがとう

匠 良心

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

子供の頃から大好きだったキャラクター……笑いあり、勇気あり、涙ありの人生が今ここで終わりになった。

今日はその人が一番印象に残ったアニメキャラクターの話

大好きをありがとう

目次

大好きをありがとう

オラ野原しんのすけ！今日は父ちゃんが家族サービスで遊園地にいったゾ！

ジェットコースターやメリーゴーランドそして観覧車、さすが父ちゃんだゾ！

しんのすけ「ふう〜遊びまくったゾ♪」

ひまわり「たいやい」

シロ「アンアン♪」

ひろし「・・・ふ、二人かがりはキツかった〜」

みさえ「ふふ、お疲れ様♪・・・本当に」

ひろし「ははは・・・いいさ、しんのすけやひまわりが喜んでくれたなら」

父ちゃんは苦笑いしながら言った。

そして母ちゃんは父ちゃんに言った。

みさえ「・・・あなた、時間よ」

ひろし「・・・ああ」

途中で母ちゃんとひまが来て遊園地や焼肉を食べに行つて凄く楽しかったぞ♪今度は何処に連れていってもらおうかな〜？

ひろし「……しんのすけ、ひまわり」

しんのすけ「っ!!」

ひまわり「たあ?」

ひろし「ひま……美人に育てよ、イケメン好きも良いけど悪いやつに騙されるなよ?」

ひまわり「う……うう」

しんのすけ「……」

ひろし「しんのすけ」

しんのすけ「と、父ちゃん!次はおサムライさんごっこしよう!そんで次は綺麗なお姉さんのいる海に出かけて」

ひろし「……しんのすけ」

しんのすけ「そ、それがダメなら風間くん達を呼んでお家でパーティーでも……」

ひろし「しんのすけ!」

父ちゃんの声は今まで聞いたことがない怒った口調でオラに言った。

でもオラは……振り向きたくない……

しんのすけ「!?!」

ひろし「こつち向いてくれよ……しんのすけ」

しんのすけ「……やだ」

ひろし「こつち向いてくれないと話せないだろ?」

しんのすけ「やだ!」

オラは知ってるんだゾ・・・父ちゃんは・・・

みさえ「しんちゃん、パパは・・・」

ひろし「いいよ、みさえ俺が言うよ」

俺はしんのすけの頭を撫でてやった

産まれてきたときは本当に小さかったのになあ今じゃ手を動かさない
ないと頭を全部触れないな

しんのすけ、お前はおバカでお調子者でくだらないことが大好き
で、よく困らされてばっかだったな

でも誰よりもお前は優しい奴だ、誰よりも強い奴だ、誰よりも賢い
奴だ

そんなお前の父親になれて良かったよ

ありがとな

俺とみさえの間に産まれてきてくれて

ありがとな

ひまわりのお兄ちゃんになってくれて

ありがとな

俺の家族になってくれて

ひろし「しんのすけ」

しんのすけ「お？」

父ちゃんはオラをクルリと回してお互いの顔が見れるようにした
ぞ

しんのすけ「やだ父ちゃん、強引なんだから」

ひろし「しんのすけ、みさえとひまわりとシロのこと・・・頼んだ

ぞ」

しんのすけ「……………」

ひろし「父ちゃんは……お前の目の前にいる父ちゃんは、これから遠い所に行かなくちやいけないんだ」

しんのすけ「……………」

ひろし「……だから家の事頼んだぞ、お前がしっかり守ってくれ」

「……………」
「ぷいっ」

オラは父ちゃんの顔を見ずに後ろを向いている……

「ははは……じゃあなしんのすけ」

みさえ「……あなた」

ひろし「悪いなみさえ、先に行ってるよ、もう一人の俺と一緒にしんのすけ達の事頼んだぞ」

みさえ「っ!!……うん!……っうん」

母ちゃんが泣いている……

ひろし「シロ」

シロ「くうくん」

ひろし「家の番犬しつかりな」

シロ「アン!」

父ちゃんはシロを励ましている……

でもオラは……………

ひろし「じゃあな、みんな！元気で」

みさえ「うっ・・・ひぐっ・・・あなた!!」

ひまわり「た、う、うう、うえええええんっ!」

シロ「アオオオオオオン!」

しんのすけ「・・・・・・・・・・・・・・・・・・うう」

暫く俺は歩いた・・・

しんのすけ「父ちゃああああん!!」

ひろし「っ!」

しんのすけ「父ちゃん！父ちゃああああん!!」

走って来やがった、あのしんのすけが

滅多なことでは泣かないしんのすけが

鼻水と涙を流しながら走ってくる

しんのすけ「行かないで父ちゃん！行っちゃダメだぞ!!」

ひろし「くっ・・・うう、しんのすけーっ!」

俺も走った、泣き叫ぶ我が子のもとへ

二人の距離は0になり力一杯抱き締めあった

しんのすけ「父ちゃあん！ずつといて！離れるなんて嫌だぞー!」

ひろし「俺だつて・・・・・・・・俺だつて離れなくねえよ！もっ

とお前達と一緒にいたかったよ！一緒に笑っていたかったよ！だけ

どな！だけどな・・・」

俺はしんのすけを引き剥がし、しんのすけの目を見て

ひろし「父ちゃんと最後の約束だ！」

しんのすけ「やく、ぐすつ、そく?」

ひろし「ああ、男と男の約束だ、いいかこれから悲しい事、辛い事が沢山ある、けどそれに負けないよう強く生きるんだ!泣いても良い!強くなれしんのすけ!」

しんのすけ「ほ、はい!オラ強くなるぞ!強く生きるぞ!父ちゃんよりもアクション仮面よりも強くなってみせるぞ!!」

ひろし「よし!じゃあ約束だ!」

「男同士のお約束くっ!」

みさえ「男同士じゃなくて家族のお約束にしなさい」

ひろし「みさえ?」

しんのすけ「母ちゃん?」

いつの間にか、みさえ、ひまわり、シロ

みんなが集まっていた

「そうだな、俺達みんな、家族のお約束だ!」

「家族のお約束う〜!!」

「たや!」「アンアン!」

「おおし!野原一家!最後の特大ファイヤー!!」

「特大ファイヤー!!」

「たー!」「アオオオオオオン!」

ひろし「部長！川口！ユミちゃん！」

川口「え！先輩！」

ユミ「野原係長!？」

部長「野原くん！」

川口「先輩！一体どこから……てゆうかどうして……」

ひろし「川口！俺がいなくても頑張れよ！握手だ！」

部長「……………はっ！」

部長は俺のことに気がついたらしい……

川口「何いってんすか？先輩？まるで今日がお別れみたいな……」

ひろし「いいから握手だ！」

川口「え？……それじゃ」

ガシッ

川口「え？」

川口と握手した時、俺の感触はあまりなかったことに気づく……

川口「先輩！……って……あれ？」

握手し終わった時、ひろしの姿はどこにもいなかった。

ユミ「部長……係長はどこに……部長？」

部長は窓のほうを眺めていた。

部長（野原くん……今までお勤めご苦労だった……ゆつくり休みたまえ）

部長の眼に一粒の涙がこぼれた……

むさえ「はあー・・・最新のカメラってやっぱ高いなーうちの小遣いじやたりないわー」

ひろし「よっ！むさえちゃん！」

むさえ「うわ!?義兄さん」

ひろし「実はむさえちゃんのためにあるものを買ってきたんだ！ほら！」

むさえ「これ・・・アタシが欲しかった最新のカメラ！義兄さん！ありがとうございます！」

ひろし「へへ！じゃあな」

むさえ「ちよつと待ってよ！お礼にパーツとって・・・・・・・・・・あれ？」

むさえがビールを持ってきた時、ひろしの姿はどこにもいなかった。

そして・・・

ガラガラ・・・

マスターヨダ「おっ来たか・・・」

ひろし「よっ！マスター久しぶり！」

マスターヨダ「まさかオメエが来るなんてな……てつきり後十年、二十年かと思ったよ」

ひろし「ははは」

マスターヨダ「はいよ！今日は俺の奢りだ……焼き鳥大盛だ！隣にいる兄ちゃんと一緒に食いな」

ひろし「隣の……」

マスオ「どーも」

ひろし「おお！磯野さん！」

マスオ「野原さん……お久しぶりです。」

マスオ「まさか野原さんもこちら側にくるなんて」

ひろし「いやーここに来る前にお世話になった人達にあいさつしてきたからな……」

マスオ「お子さんのしんのすけくんは大丈夫でしたか？」

ひろし「しんのすけ……」

オラ強くなるぞ！強く生きるぞ！父ちゃんよりもアクション仮面よりも強くなってみせるぞ!!

ひろし「……いや……あいつはもう大丈夫だ……なんせ俺の自慢の息子だからな……」

マスオ「そうですか……」

？「……ふっいい年した親父どもが何をやってるんだが……」

ひろし「え？お前……確かしんのすけの描いた……」

？「そう私はジャンピエー」ぶりぶりざえもんだな」ガクッ！……おい！最後まで言わせろ！」

ひろし「そうかお前もいたんだっけかな」

ぶりぶりざえもん「ふっ私はあつちでは有名だからななんたって救いのヒーローだからな……」

ひろし「なんだそりゃ？」

ぶりぶりざえもん「で？あつちの私はなんとか活躍しているか？」

ひろし「あつち……」

ぶりぶりざえもん「どうなんだ？」

ひろし「安心しろ……しんのすけと一緒になんだ……あつちのお前もいろいろと活躍してるよ」

ぶりぶりざえもん「ふ……そうか」

その時

ガラガラ……

園長「おお野原さん！」

ひろし「おお！園長先生！」

波平「マスオくん」

フネ「ご無沙汰ね……」

マスオ「おお！お義父さん！お義母さん！」

しんのすけの通う幼稚園の園長やサザエさんの父、波平と母　フネ
が来た。

マスターヨダ「オメーら辛気くせえ話は抜きにして……これを
見て笑おうぜ」

マスターヨダは「大丈夫だあ」のDVDをデッキに入れて5人と一
匹は鑑賞した。

彼らがこの世にいなくなっても僕らはけっして忘れない

増岡さん、藤原さん……御冥福をお祈りします

僕たちが愛したキャラクターは彼らがいたから……ありがとう
う……